

では、どこの株が上がるかを教えよう

有名企業225社を完全分析

ズバリ！今年「上がる株」 「下がる株」とその株価

ソニーの今後に期待

植木 昨年末から上昇してきた日経平均株価も、年明けからしばらくは調整局面を迎えそうです。

藤本 私もそう見ます。ただ、春先からは再び上昇に転じ、2万円を超えるのではないのでしょうか。

村瀬 昨年もそうでしたが、年度初めにはGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）のポートフォリオの組み換えが意識され、株価が上昇する傾向にあります。
植木 4月には統一地方選

挙があり、自民党が勝利を収めるためには、アベノミクスがうまく行っていることを演出する必要があるので、とも上昇の一因です。

村瀬 そんな中、どの銘柄が上がるか、下がるか。目安の株価はどのくらいか。

日経平均株価に採用されている225銘柄をすべて予想するというのが、今回の編集部オーダーです。無茶を言いますね（笑）。

植木 日経平均に採用されているわけですから、当然、

それに連動して動くわけですね。その中で、日経平均株価の上昇率よりも上がる銘柄と、その株価を予想していけばいいのでは？

藤本 逆に下がる銘柄は、日経平均株価の動きについていけない銘柄になりそうですね。

植木 まずは電気機器から始めましょうか。円安の恩恵を受ける輸出企業、なかでも重厚長大型の企業が強いそうです。

村瀬 そういった観点から日立製作所や東芝は株価の上昇が期待できそうです。

安倍政権が積極的に同社の製品を海外に売り出しているのも好材料です。

藤本 僕は富士電機がイチオシです。近年、セブンイレブンの店頭で買える淹れたてのコーヒーが人気ですよね。あの機械を作っているのが、この会社なんです。しかも、今年からセブ

ンイレブンは順次、店頭でドーナツ販売を導入する予定です、ドーナツ用ショーカーも富士電機が協力して開発したものです。こうしたヒット商品があって業績も

いいのに、株価は上がっていない。そろそろマーケットから評価されていい。

植木 私は極小ベアリング製造の大手、ミネベアに注目しています。ベアリングは様々な機械に使われるので、需要が涸れることがない。その上、同社の技術は世界的な競争力もあり、今期は自動車向けのベアリングが絶好調です。

村瀬 それに対して、今期2300億円の最終赤字を見込むなど、業績は最悪なのですが、僕はソニー株に

業種	銘柄/コード	見直し	株価	予想株価	寸評	
医薬品	協和発酵キリン	4151	↘	1163円	1000円	<p>今年は注目を集める新薬の発表もなさそう、劇的な成長は見込めない。ただし、各社とも業績は堅調で、配当利回りも高い。積極的に買われにくいものの、「全体の株価が下落基調のときに買われやすい、典型的なディフェンシブ銘柄」(藤本氏)。</p> <p>なかでも株価が動きやすいのは、塩野義製薬、中外製薬、エーザイの3社だろう。「エーザイは投資ファンドの資金が入っている可能性もあり、同業他社と異なる値動きをするので注意を払いたい」(村瀬氏)。</p>
	武田薬品工業	4502	→	5057円	5500円	
	アステラス製薬	4503	→	1713円	1800円	
	大日本住友製薬	4506	→	1199円	1300円	
	塩野義製薬	4507	↗	3200円	3900円	
	中外製薬	4519	↗	3050円	3700円	
	エーザイ	4523	↗	4715円	5700円	
	第一三共	4568	→	1703.5円	1800円	
電気機器	ミネベア	6479	↑	1803円	2500円	<p>円安の恩恵も受け、業界全体は堅調に推移。さらなる株価上昇が期待できる。引き続き株価が強そうなのは、「重厚長大型の企業。なかでも日立製作所や東芝、三菱電機の3銘柄に注目したい」(植木氏)。</p> <p>3氏がそろって推す極小ベアリング大手のミネベアは、業績が急拡大している。「とくに自動車向けのベアリングが絶好調」(植木氏)。「ベアリングはロボットなど、動くものには幅広く使われ、同社は海外でも競争力がある」(藤本氏)。</p> <p>そのほか、株価が出遅れている富士電機やGSユアサ、海外でATM事業を積極展開するOKI、メガネに装着できる小型装置の量産を発表したソニーなどが注目銘柄。「年内にも量産される予定のソニーの新製品は用途も幅広く、工場や研究所などでも使われる可能性もある。経営の再建に目処が立てば、今年は株価が大化けしてもおかしくない」(村瀬氏)。</p> <p>富士電機に注目するのは藤本氏で、「セブンイレブンのレジ前に設置されているコーヒーメーカーや、今年、全店での導入が噂されているドーナツ販売用のショーケースも同社の商品。業績もいいのに、株価は上がっていない。そろそろ評価されるはず」。また、「GSユアサも業績に比べて株価はまだ上がっていない」(植木氏)ものの、「一昨年は暴騰したので、昨年は休憩だったのだから。今年は再び大きく値上がりするかもしれない」(藤本氏)。</p> <p>ミツミ電機やアルプス電気といった電子部品メーカーは「スマホ需要も一段落して頭打ち。ただ、実用段階に入りつつある自動運転向けの車載センサーが好調なことを考えると、株価は横ばいと見ていいだろう」(藤本氏)。「世界的な工作機械メーカーのファナックは国内外で需要が膨らみ、円安も追い風になりそうだ」。</p> <p>半導体装置大手のスクリーンは海外事業が好調な上、医療分野など新領域への進出にも積極的に株価は上昇する見通しだ。</p>
	日立製作所	6501	↑	915.6円	1300円	
	東芝	6502	↑	514.6円	720円	
	三菱電機	6503	↑	1472.5円	2100円	
	富士電機	6504	↑	491円	690円	
	安川電機	6506	→	1586円	1700円	
	明電舎	6508	→	386円	430円	
	GSユアサ	6674	↑	518円	730円	
	NEC	6701	↗	350円	420円	
	富士通	6702	→	651.4円	720円	
	OKI	6703	↗	233円	280円	
	パナソニック	6752	→	1458円	1600円	
	シャープ	6753	→	266円	290円	
	ソニー	6758	↗	2557円	3100円	
	TDK	6762	→	7480円	8200円	
	ミツミ電機	6767	→	984円	1100円	
	アルプス電気	6770	→	2377円	2600円	
	パイオニア	6773	→	223円	250円	
	横河電機	6841	→	1361円	1500円	
	アドバンテスト	6857	→	1526円	1700円	
デンソー	6902	→	5751円	6300円		
カシオ	6952	→	1895円	2100円		
ファナック	6954	↑	2万145円	2万9000円		
京セラ	6971	→	5686円	6300円		
太陽誘電	6976	→	1415円	1600円		
スクリーンHD	7735	↗	727円	880円		
キヤノン	7751	→	4026円	4400円		
リコー	7752	→	1245.5円	1400円		
東京エレクトロン	8035	→	9349円	1万1000円		
自動車	日産自動車	7201	→	1062.5円	1200円	すでに株価は過熱気味で、今年は業界へ

絶好調トヨタの不安材料

植木 一方、自動車業界はどうでしょうか。円安を背景に業績は好調ですが、株価という点から見れば、少し上がりすぎたかな。

藤本 同感です。僕も自動車はネガティブに捉えています。とくに昨年急上昇した、トヨタ自動車と富士重工(スバル)が今年も同じように上がるとは思えません。実はトヨタ自動車にはもうひとつ、不安材料があります。それが今年秋に

大化けの可能性を感じているんです。同社が昨年12月に発表し、年内に量産が始まる新製品——メガネに装着する小型装置は大きく伸びる可能性がある。スマートフォンやカメラと連動するため、たとえば、工場で作業者が本部からの指示を画像で確認しつつ、両手を自由に動かして作業を進めることができる。このほかにもスポーツシーンなど、様々な用途が考えられる。

藤本誠之(ふじもと・のぶゆき) / SBI証券投資調査部シニアマーケットアナリスト。12年には「Yahoo!ファイナンス」の株価予想で39連勝を達成した。「相場の福の袖」として知られる。

植木靖男(うえき・やすお) / 株式評論家。日興証券(現SMBC日興証券)にて調査部門、株式本部に所属し、'98年に独立。長いキャリアを誇り「中町の御堂目録」の著者。

業種	銘柄/コード	見通し	株価	予想株価	寸評	
自動車	いすゞ自動車	7202	→	1460円	1600円	全体で横ばいが予想される。「秋に上場が予定されている日本郵政の株を買うため、機関投資家は手元に資金を用意してはならない。そこで処分されやすいのが、各社が大量に保有するトヨタ株。その結果、株価は下がるだろう。富士重工(スバル)も米国での好調を背景に昨年高騰したので、今年は値下がりしそう」(藤本氏)。逆に期待できるのがスズキ。「軽自動車工コカー減税の対象になることは、同社にとって大きな好材料」(村瀬氏)。
	トヨタ自動車	7203	↓	7611円	6900円	
	日野自動車	7205	→	1591円	1800円	
	三菱自動車	7211	→	1107円	1200円	
	マツダ	7261	→	3016円	3300円	
	本田技研工業	7267	→	3661円	4000円	
	スズキ	7269	↑	3719.5円	4500円	
富士重工	7270	↓	4406.5円	3900円		
精密機器	テルモ	4543	→	2842円	3100円	日経平均株価と比べて、大幅に上昇が期待される。注目銘柄はコニカミノルタとオリンパス、シチズンHD。「コニカミノルタは欧州で複写機が売れていて業績も好調」(植木氏)。オリンパスは消化器用内視鏡が好調。「シチズンの時計は中国人観光客の富裕層に人気が高い」(藤本氏)。
	コニカミノルタ	4902	↑	1350円	1700円	
	ニコン	7731	→	1633円	1800円	
	オリンパス	7733	↑	4455円	5400円	
	シチズンホールディングス	7762	↑	951円	1200円	
通信	スカパーJSAT HD	9412	→	722円	800円	こちらも日本郵政上場のしわ寄せを受けて株が売られやすい業界。昨年はアリババの上場で話題性があつたソフトバンクだが、「次の株価材料が出るまで、時間がかかりそう」(植木氏)。スマホ市場にも陰りが出てきた。「KDDIが格安スマホに参入したことが象徴的。パイの拡大は終わり、今後は奪い合いが始まる」(村瀬氏)。
	NTT	9432	↓	6184円	5500円	
	KDDI	9433	↓	7886円	7000円	
	NTTドコモ	9437	↓	1788.5円	1600円	
	NTTデータ	9613	→	4530円	5000円	
	ソフトバンク	9984	↓	7370円	6600円	
銀行・カード	新生銀行	8303	→	212円	230円	昨年、大幅に値上がりした地銀だが、今年の株価見通しは暗いものになりそう。「4月の統一地方選を先取りして値上がりしすぎている。なかでも拡大路線を進めてきたふくおかFGは、その戦略が裏に出ているのではないか。千葉銀行にも株価に関するめぼしい話題がない」(藤本氏)。地銀以外では、あおぞら銀行が再編含みで面白い値動きになるかもしれない。「まだ確たる話ではないが、再び金融機関で合併があるとしたら、目玉はあおぞら銀行だろう。再編期待で株価が上がり、大化けする可能性もある」(村瀬氏)。メガバンクには大きな値動きはないものの、「良い変化があるときに最初に上がるので、多少は期待できる。買うなら素早く動いて、深追いは避けるべき」(植木氏)。
	あおぞら銀行	8304	↑	379円	460円	
	三菱UFJ FG	8306	→	670.9円	740円	
	りそなホールディングス	8308	→	616.3円	680円	
	三井住友トラスト・HD	8309	→	467.7円	520円	
	三井住友FG	8316	→	4405.5円	4900円	
	千葉銀行	8331	↓	810円	720円	
	横浜銀行	8332	→	672.4円	740円	
	ふくおかFG	8354	↓	636円	500円	
	静岡銀行	8355	→	1119円	1200円	
みずほFG	8411	→	202.3円	230円		
クレディセゾン	8253	→	2274円	2500円		
証券	大和証券グループ本社	8601	↑	963.8円	1400円	アベノミクスで株式市場が活況を呈することは確定的。売買が活発になれば証券株も上がる。今年も期待大。「なかでも業界トップの野村に注目している」(藤本氏)。
	野村ホールディングス	8604	↑	703.5円	1000円	
	松井証券	8628	↑	1063円	1400円	
保険	損保ジャパン日本興亜HD	8630	→	3080円	3400円	生保は売られやすく、損保は買われるだろう。「日本郵政と同時にかんぽ生命が上場するため、同業種である第一生命は売られやすい」(藤本氏)。損保は、株価自体は割安なので、それほど売られない。
	MS&ADインシュアランスGHD	8725	→	2891.5円	3200円	
	ソニーフィナンシャルHD	8729	→	1790円	2000円	
	第一生命保険	8750	↓	1871.5円	1600円	

予定されている日本郵政の大型上場です。機関投資家は、日本郵政をポートフォリオに組み込まざるを得ない。とすると、機関投資家が大量に保有するトヨタ株を売って、資金の準備をするでしょう。需給のバランスが崩れて、株価は失速すると見ています。

村瀬 精密機器の分野では、何と言っても**オリンパス**に注目です。同社は、消火器用内視鏡で世界シェアの7割を占めている。安倍政権がアベノミクスの成長戦略の軸に医療分野を掲げていることも追い風です。

藤本 **ソフトバンク**は昨年、同社が筆頭株主の中国の電子商取引大手アリババ・グループの上場が話題になりましたが、株価は上がりませんでした。今年はさらに話題性に乏しく、投資妙味はなさそうです。

村瀬 私もそう思います。米携帯会社スプリントが業績に寄与するのはまだ時間がかかりそうですし、近年、ソフトバンクが活発に行っているインドへの投資も、

村瀬智一(むらせ・ともかず) / 投資情報会社フィスコ情報配信部長。大東証券(現みずほインベスターズ証券)で先物・株式ディーリング業務に従事し、'99年フィスコへ入社。相場の先行き見通しに定評がある

業種	銘柄/コード	見通し	株価	予想株価	寸評
保険	東京海上ホールディングス 8766	↗	3933円	4800円	業界トップの東京海上は海外進出にも積極的で、値上がりも(植木氏)。
	T&Dホールディングス 8795	→	1474.5円	1700円	
水産・食品	日本水産 1332	→	375円	410円	業績好調の会社が多く、すでに株価は上昇して高値圏にある。世界的な和食ブームで成長は続くものの、株価がさらに大きく値上がりするかは不透明だ。円安による原材料費の高騰もネック。「キッコーマンの醤油は欧米でも売り上げを伸ばし、業績も絶好調。株価も業績を織り込んで、昨年は年間で2倍弱になっている」(藤本氏)。上昇余地がありそうなのは、ニチレイとアサヒか。「ニチレイは物流拠点を整備し、冷凍倉庫では寡占状態。飲料では、スーパードライが堅調で、海外のM&Aで成果を上げるアサヒが伸びる」(村瀬氏)。キリンは昨年末に発表した社長交代の影響を見極めたい。営業利益の2割超をロシア事業が占めるJTは、ルーブル暴落の悪影響を受け、株価は軟調だろう。
	マルハニチロ 1333	→	1793円	1900円	
	日清製粉グループ本社 2002	→	1210円	1300円	
	明治ホールディングス 2269	→	1万1340円	1万2000円	
	日本ハム 2282	→	2742円	3000円	
	サッポロホールディングス 2501	→	542円	600円	
	アサヒグループHD 2502	↗	3866円	4700円	
	キリンホールディングス 2503	→	1577円	1700円	
	宝ホールディングス 2531	→	804円	880円	
	キッコーマン 2801	→	3075円	3400円	
	味の素 2802	→	2296円	2600円	
小売業	ニチレイ 2871	↗	537円	650円	アベノミクスの影響で高額商品を中心に売れ行きが回復してきた。訪日外国人旅行者の増加も追い風に、百貨店は引き続き好調の見通しだ。「三越伊勢丹の銀座三越店は上階に大きな免税店をつくるので、外国人観光客がさらに増えそう」(藤本氏)。一方、国内の個人消費の低迷が続くので、イオンやユニーなど、スーパーは厳しい。日経平均への寄与度が高いファーストリテイリングは「海外で売れても国内では伸びないため、株価は横ばい」(植木氏)。
	JT 2914	↘	3433.5円	3000円	
	J.フロント リテイリング 3086	↗	1456円	1800円	
	三越伊勢丹HD 3099	↗	1529円	1900円	
	セブン&アイHD 3382	→	4446円	4900円	
	高島屋 8233	↗	1004円	1300円	
	丸井グループ 8252	→	1083円	1200円	
	イオン 8267	↘	1189.5円	1000円	
サービス	ユニーグループHD 8270	↘	606円	540円	全般に昨年は軟調だったため、今年は株価の上昇が期待できる。電通は海外事業の加速化が評価のポイント。「ヤフーは昨年3割も下落。業績は悪くないので、今年は値上がりしてもおかしくない」(藤本氏)。都心に多くの不動産を保有する東宝は、「不動産価格が上がると含み益が増えるため、同社の株価も上がる」(植木氏)。セコムの手掛ける機械式の警備システムは法人、個人ともに顧客を増やす。
	ファーストリテイリング 9983	→	4万5615円	5万円	
	電通 4324	↗	5220円	6300円	
	ヤフー 4689	↗	439円	550円	
	トレンドマイクロ 4704	→	3650円	4000円	
	東宝 9602	↗	2791円	3400円	
	東京ドーム 9681	→	533円	590円	
繊維	セコム 9735	↗	7102円	8600円	繊維業界としては伸びが期待できないが、成長分野に進出している企業に注目。最も期待できるのは東レ。「同社の炭素繊維複合材は飛行機や車などにも転用され、業績を伸ばしている成長分野」(植木氏)。「日清紡も、自動車用のブレーキ摩擦材では世界トップ。空飛ぶ自動車でも出てこない限り、需要はなくなるらない」(藤本氏)。
	コナミ 9766	→	2303円	2500円	
	東洋紡 3101	→	163円	180円	
	ユニチカ 3103	→	60円	70円	
	日清紡ホールディングス 3105	↗	1296円	1600円	
	日東紡績 3110	→	436円	490円	
ハルフ・紙	帝人 3401	→	316円	420円	人口減と電子化で需要減。次世代素材「セルロースナノファイバー」も研究段階で、
	東レ 3402	↑	930.5円	1300円	
王子ホールディングス 3861	→	437円	490円		
	日本製紙 3863	↘	1785円		1600円

芽が出るまでに数年はかかる。人型ロボット「ペッパー」が爆発的に売れるとも思えませんがね。

藤本 メガバンクはアベノミクスの好影響で史上最高益を叩き出しているのに、株価が上がっていません。それよりも悪いのが、地方銀行です。危機感を抱いて、合併・再編が進んでいるのはわかるのですが、根本的な解決になっていない。

村瀬 再編といえは、あおぞら銀行は面白いかもしれませんが、かつても新生銀行との合併が話題になりましたが、今年も再び合併話が浮上する可能性がある。具体的にどことは言えませんが、仮にそうなると、株価は跳ね上がるはずですよ。

植木 株式市場が活況を呈すれば、株の売買が増加するわけですから、証券会社の株価が上昇すると見て間違いありません。

藤本 日経平均株価に採用されている証券3社のなかでは、業界最大手の野村ホールディングスが手堅いでしょう。一方、生命保険は

業種	銘柄/コード	見通し	株価	予想株価	寸評	
ハルブ紙	北越紀州製紙	3865	↘	522円	460円	実用化は先。我慢の時期が続くそう。
化学	クラレ	3405	→	1413円	1600円	<p>去年は各社の業績も良く、株価も上昇傾向にあった。今年はそれほどの伸びは期待できないが、注目銘柄はある。</p> <p>その一つが旭化成で、今期、史上最高益を更新する勢い。「昨年も株価は4割ほど上がったが、まだ上昇余地はある」(藤本氏)。「旭化成はグループに住宅事業も持っているなど、化学以外の多彩な事業に力を入れているところも魅力的」(村瀬氏)。</p> <p>ほかにも、「急上昇はなさそうだが、業界を牽引する総合化学の三井化学と三菱ケミカルは開発力もあり、株価は引き続き堅調だろう」(植木氏)。</p> <p>花王はおむつや生理用品など、中国でのビジネスが絶対好調だ。富士フィルムは思い切った構造改革に加え、子会社が開発したエボラ出血熱治療薬など、創業分野でも注目されている。「この薬は春までに世界各地で承認される可能性もあり、そのときは瞬間高が期待できる」(村瀬氏)。</p> <p>逆に厳しい見通しとなったのが、昭和電工と資生堂だ。「昭和電工は原油安の影響で、業績を下方修正した。資生堂はいち早く中国市場に進出したものの、すでに現地では飽きられ、ブランドとして通用しにくくなっている」(村瀬氏)。</p>
	旭化成	3407	↗	1105.5円	1500円	
	昭和電工	4004	↘	154円	130円	
	住友化学	4005	→	482円	530円	
	日産化学工業	4021	→	2262円	2500円	
	日本曹達	4041	→	686円	750円	
	東ソー	4042	→	574円	630円	
	トクヤマ	4043	→	248円	270円	
	電気化学工業	4061	→	448円	490円	
	信越化学工業	4063	→	8053円	8900円	
	三井化学	4183	↗	346円	420円	
	三菱ケミカルHD	4188	↗	608.1円	740円	
	宇部興産	4208	→	180円	200円	
	日本化薬	4272	→	1486円	1600円	
花王	4452	↗	4902.5円	5900円		
富士フィルムHD	4901	↗	3729円	4500円		
資生堂	4911	↘	1691.5円	1500円		
日東電工	6988	→	6814円	7500円		
石油・ゴム	国際石油開発帝石	1605	→	1367.5円	1500円	<p>原油価格の下落で、石油業界は厳しい状況が続く。「生き残る会社が注目されるので、業界トップのJXに資金が集中しやすくなる」(藤本氏)。</p> <p>昭和シェル石油は出光興産による買収交渉が報じられたため、株価の見直し立たす。ブリヂストンなどタイヤ業界は、世界的に需要があるため堅調。</p>
	昭和シェル石油	5002	—	1267円	—	
	JXホールディングス	5020	↗	476円	580円	
	横浜ゴム	5101	→	1158円	1300円	
	ブリヂストン	5108	↗	4282円	5200円	
窯業	旭硝子	5201	→	599円	660円	<p>薄型パネル用ガラスの需要低迷で、ガラス各社は業績が伸びず、株価も低迷した。今年もこのトレンドは継続する見通し。</p> <p>一方、セメント業界は「新国立競技場の建設など、東京オリンピック需要が続くので、株価も上昇していく」(植木氏)。「震災の復興需要もあつて昨年は人手不足だったが、今年は状況が改善」(村瀬氏)。</p> <p>そのほか、日本ガイシについては「環境関連で注目している。次世代型蓄電池の将来性にも期待できる」(藤本氏)。</p>
	日本板硝子	5202	→	113円	130円	
	日本電気硝子	5214	→	557円	620円	
	住友大阪セメント	5232	↗	345円	420円	
	太平洋セメント	5233	↗	386円	470円	
	東海カーボン	5301	→	371円	410円	
	TOTO	5332	→	1414円	1600円	
	日本ガイシ	5333	↗	2549円	3100円	
鉄鋼	新日鐵住金	5401	↗	303.5円	370円	<p>ロシア経済悪化の余波で鉄鋼各社は厳しくなりそう。「主力の自動車用鋼板が炭素繊維に置き換えられていけば、さらに苦しくなる」(藤本氏)。</p> <p>ただし、「新日鐵住金はブランド力もあり、下値は限定的」(植木氏)。</p> <p>一方、「原料費高騰の影響を受けやすい大平洋金属はきつい」(村瀬氏)。</p>
	神戸製鋼所	5406	→	207円	230円	
	JFEホールディングス	5411	→	2713円	3000円	
	日新製鋼	5413	→	1157円	1300円	
	大平洋金属	5541	↘	356円	300円	
非鉄・金属	SUMCO	3436	→	1777円	1900円	業界全体として先行きは不透明。

どうした!? イオン

上場している会社が少ないので、**第一生命保険**に注目するしかない。ただ、これも日本郵政とともに上場するかんぽ生命が不安材料になります。機関投資家は第一生命を売って、かんぽを買う動きになる。暴落することはないでしょうが、多少は値下がりがします。

村瀬 飲料の分野でビール3社を比べると、**アサヒ**に軍配を上げたいですね。東南アジアなど海外で積極的にM&Aを展開している。国内市場では子会社のニッサンが、NHKの朝ドラ『マッサン』効果で絶対好調です。植木 それに**キリン**がだらしなない。

藤本 ええ。アサヒは主力製品のスーパードライがしっかりしています。キリンは新商品を投入する一方で、主力の一番搾りが失速してしまっただけで、昨年末に交代が発表された新社長の手腕を見極めたいですね。

業種	銘柄/コード	見通し	株価	予想株価	寸評	
非鉄金属	日本軽金属HD	5703	↗	174円	220円	<p>為替や原材料費など、国際的な市況の影響を受けるため、個別の材料で物色していくしかない。そのなかで期待できるのが、電線大手の住友電気工業とフジクラ。「電柱をなくして電線を埋める「地中化」という材料から株価が上がりそう」(村瀬氏)。</p> <p>また、是非は別として原発の再稼働が材料となるのは、日本軽金属だ。「電気を大量に消費するアルミ加工大手で、電気料金が引き下げになれば、大きな恩恵を享受できるはず」(藤本氏)。</p> <p>そのほかにも、「非鉄金属の大手で自動車用部品が好調な三井金属鉱業と、個人株主にも人気の高い三菱マテリアルは堅調な値動きが期待できる」(植木氏)。</p>
	三井金属鉱業	5706	↗	292円	350円	
	東邦亜鉛	5707	→	403円	440円	
	三菱マテリアル	5711	↗	399円	480円	
	住友金属鉱山	5713	→	1806円	2000円	
	DOWAホールディングス	5714	→	971円	1100円	
	古河機械金属	5715	→	206円	230円	
	古河電気工業	5801	→	196円	220円	
	住友電気工業	5802	↗	1543円	1800円	
フジクラ	5803	↗	500円	600円		
東洋製鐵グループHD	5901	→	1560円	1700円		
商社	双日	2768	↘	165円	140円	<p>円安や原油の暴落で、資源ビジネスを手がける総合商社は苦戦している。「米国のシェールオイルで失敗し、2400億円もの損失を出した住友商事の先行きは厳しい」(藤本氏)。</p> <p>ロシア事業の割合が高い双日も、今年の株価は軟調の見通しだ。</p> <p>大手は「株価は割安で、配当利回りも3%と高い。日経平均と同程度には上昇する」(植木氏)。</p> <p>また、「資源ビジネスを手がけていない豊田通商はまだマシ」(藤本氏)。</p>
	伊藤忠商事	8001	→	1279.5円	1400円	
	丸紅	8002	→	717.7円	790円	
	豊田通商	8015	↗	2835円	3300円	
	三井物産	8031	→	1610.5円	1800円	
	住友商事	8053	↘	1230.5円	1100円	
	三菱商事	8058	→	2206.5円	2500円	
建設	コムシスホールディングス	1721	→	1681円	1800円	<p>復興需要に加え、公共事業にテコ入れするアベノミクスの恩恵を受け、株価は上昇が見込まれる。とくに注目されるのは、大成建設と大和ハウス工業。「東京オリンピックのメインスタジアムとなる国立競技場の工事を受注した大成建設は個人投資家の人気も集める」(植木氏)。</p> <p>大和ハウス工業は「今年から相続税の制度が変わり、対象者が急増。その対策として賃貸アパートの需要が増えているため、同社のノウハウに注目が集まる」(藤本氏)。</p>
	大成建設	1801	↑	665円	930円	
	大林組	1802	↗	771円	920円	
	清水建設	1803	↗	818円	980円	
	鹿島建設	1812	→	492円	600円	
	大和ハウス工業	1925	↑	2316.5円	3200円	
	積水ハウス	1928	↗	1592円	1900円	
日揮	1963	→	2509円	2700円		
機械	日本製鋼所	5631	↘	428円	380円	<p>成長分野を手がける会社の株は引き続き上昇するが、原発関連は厳しい。日本製鋼所は原発向けの製品が主力のため、下落基調だろう。東海地方の工作機械大手のオークマは省エネ関連で好調。</p> <p>昨年、大きく値上がりしていた中国関連のコマツと日立建機は、中国経済の悪化で横ばいの見通し。ただし、中国で売り上げを伸ばすダイキン工業のエアコンは、大気汚染の影響で引き続き売れそうだ。</p> <p>そのほか、ベアリングが主力のNTN、ジェイテクトも評価が高い。「自動車向けが好調で、業績も急伸している。今年も流れは変わらない」(村瀬氏)。</p> <p>日立造船はコミシ、三菱重工業については「幅広い事業を手掛けているが、とくに期待しているのは、</p>
	オークマ	6103	↗	970円	1200円	
	アマダ	6113	→	1045円	1200円	
	コマツ	6301	→	2743円	3000円	
	住友重機械工業	6302	→	657円	730円	
	日立建機	6305	→	2613円	2900円	
	クボタ	6326	→	1809円	2000円	
	荏原製作所	6361	→	493円	550円	
	千代田化工建設	6366	→	1020円	1200円	
	ダイキン工業	6367	↗	8021円	9700円	
	日本精工	6471	→	1466円	1700円	
NTN	6472	↗	544円	660円		

植木 円安の効果で外国人観光客が激増しています。彼らは高額商品を買いますから、百貨店の株価は好調と見ていいでしょう。

村瀬 たしかに外国人向けは好調ですが、日本人向けの小売りはどうでしょう。

藤本 消費増税の影響もあってか、スーパーは軒並み調子が悪い。

植木 そうですね。なかでもイオンはどうしちゃったのかと心配になるほど、業績が悪化しています。

他方、繊維では、東レの株価がさらに上昇すると見えています。同社が供給する炭素繊維複合材は飛行機に使用され、今後は自動車に向けて供給することも決まっている。業績がいい上に、将来性もあります。

村瀬 旭化成も業績好調で今期は史上最高益になりそうです。同社は化学分野に加えて住宅や医療など、多彩な事業があるのが強み。藤本 昨年、株価は4割ほど上がっていますが、さらに上昇して1500円くらいまではありそうです。

業種	銘柄	コード	見直し	株価	予想株価	寸評
機械	ジェイテクト	6473	↗	2102円	2600円	「今年春に試験飛行が始まる小型旅客機MRJ」(藤木氏)。植木氏が注目するのはIHJだ。「航空エンジンが好調で、株価も昨年、22年ぶりに高値を更新。この調子なら、さらなる上昇が続くだろう」。
	日立造船	7004	↗	709円	860円	
	三菱重工業	7011	↑	680.9円	960円	
	IHI	7013	↑	623円	1000円	
造船・その他製造	三井造船	7003	→	216円	240円	ボーイング787向けに世界最大級の胴体部品をつくった川崎重工業に注目が集まる。印刷業界は昨年同様、厳しい状況が続く上、「すでに株価は割高な水準まで値上がりしている。今年はこれ以上の上昇を見込めない」(藤木氏)。楽器総合のヤマハは、めばしい株価材料が見当たらない。
	川崎重工業	7012	↗	560円	680円	
	凸版印刷	7911	→	794円	880円	
	大日本印刷	7912	→	1103円	1200円	
	ヤマハ	7951	→	1840円	2000円	
不動産	東急不動産HD	3289	↗	825円	1000円	アベノミクスによる地価上昇をいち早く織り込んで、株価はすでに値上がりしている。業界として全体的に横ばいだろう。ただし、「値動きの軽さと話題性で、短期的に上昇する銘柄もある」(村瀬氏)。「渋谷の開発で話題性がある東急不動産が狙い目。もしくは、昨年は公募増資によって株価が下落した三井不動産か」(藤木氏)。
	三井不動産	8801	↗	3292.5円	4000円	
	三菱地所	8802	→	2562.5円	2800円	
	平和不動産	8803	→	1794円	2000円	
	東京建物	8804	→	885円	980円	
	住友不動産	8830	→	4213円	4700円	
	東武鉄道	9001	→	522円	570円	
東京急行電鉄	9005	→	748円	830円		
小田急電鉄	9007	→	1081円	1200円		
京王電鉄	9008	→	889円	980円		
京成電鉄	9009	↗	1481円	1800円		
JR東日本	9020	↗	9200円	1万1000円		
JR西日本	9021	→	5796円	6400円		
JR東海	9022	→	1万8380円	2万円		
陸運・運送倉庫	日本通運	9062	↗	606円	730円	燃料費の軽減という形で原油安の恩恵を受ける、典型的な業界。昨年に続き、今年も株価の上昇が続くだろう。日本通運とヤマトは燃料安に加えて、ネット通販の増加により、利用者がさらに増える。海運3社は円安メリットも大きい。「海運はドル建ての取引なので、円安に動きやすさ利益が増える。なかでも株価が動きやすいのは川崎汽船」(植木氏)。物流の拠点として、三菱倉庫も恩恵に与りそうだ。
	ヤマトホールディングス	9064	↗	2481.5円	3000円	
	日本郵船	9101	↗	344円	420円	
	商船三井	9104	↗	360円	440円	
	川崎汽船	9107	↑	318円	450円	
	ANAホールディングス	9202	↗	301.6円	370円	
	三菱倉庫	9301	↗	1850円	2300円	
電力ガス	東京電力	9501	↘	459円	400円	'16年度に迫った電力自由化を前に、競争激化。「原発事故の後遺症がある東京電力の株価は厳しい」(藤木氏)。電力各社は大阪ガスの動きを注視しており、「同社は家庭用電力の販売を具体化させており、首都圏への進出も視野に入れている。業界再編が起こるかもしれない」(村瀬氏)。
	中部電力	9502	→	1409.5円	1600円	
	関西電力	9503	→	1134円	1200円	
	東京ガス	9531	→	650.2円	720円	
	大阪ガス	9532	↗	449円	550円	

【表の見方】業種と銘柄は、日本経済新聞社が運営するサイト「日経平均プロフィール」のデータを参考にした。各銘柄の「見直し」は3氏の意見を元に、株価の上昇(下落)率が日経平均株価の上昇(下落)率を上回るかどうかを基準にして、5段階に分類。「株価」は'14年12月25日の終値。「予想株価」は'15年中につける上値(下値)の目処を表す

植木 商社は、住友商事が
 今期シエールガスの失敗で
 2400億円の赤字を計上
 したように、資源ビジネス
 の成否が明暗を分けます。
 藤本 判断が難しいですよ
 ね。たしかに業績はいいの
 で株価は割安のように見え
 るのですが、資源ビジネス
 は曲がり角を迎えていて、
 どんな悪材料が突然発表さ
 れるかわからない。今年
 は敬遠したほうがいいかも
 しません。資源ビジネスに
 進出していない豊田通商は
 少しいかな、という気も
 しますが。
 植木 建設業界は基本的に
 アベノミクスがプラスに働
 くでしょう。なかでも業界
 トップの大成建設は竹中工
 務店とともに、新国立競技
 場の工事を受注したことが
 好材料です。
 藤本 機械では、三菱重工
 業が狙い目ではないでしょ
 うか。火力発電用ガスター
 ビンなど本業が好調の上、
 今春には小型旅客機MRJ
 の試験飛行が始まるという、
 誰の目にもわかりやすい話
 題がありますからね。

植木 IHIは航空エンジンの分野で国内シェア7割を握り、自動車用ターボチャージャーでは世界トップになろうとしています。で

も株価はまだまだ安い。今年には1000円を超えてもおかしくはない。村瀬 不動産について言うと、各社の現在の株価は、東京オリンピックによる需

要増を織り込んだ数値だと思っんですよ。藤本 その中でも値上がりするとしたら、渋谷の開発が話題の**東急不動産HD**と、昨年公募増資を行って

株価が下落した**三井不動産**あたりですか。植木 いずれにせよ、上下動はありますが、15年を通して日経平均株価は上がっていくというのが、我々の一致した意見ですね。